

## 当別花卉生産組合におじゃましました

札幌都心部から車で40分ほどのところにある当別町は、道内屈指の花の産地です。当別町の花の生産についてお話を聞くため、当別花卉生産組合の三浦組合長を訪ねました。私たちが伺った時、三浦さんご夫婦はトルコギキョウの撰花の真っ最中。ご主人は作業の手を休め、対応してくださいました。

### ■来年で設立40周年

当別町では、米の生産調整が始まった昭和45年から花の栽培気運が高まり、高校を卒業したての若い後継者が中心となって、菊やグラジオラスなどの栽培が開始されました。そして生産者6名が昭和47年に「当別花卉生産組合」を設立し、組織的な生産をスタート。その後徐々に売上げを伸ばし、平成8年には販売額11億9千万円となりました。現在も87名の組合員により、8億円を超える生産額を維持しています。

来年は組合設立40周年。50年、100年と続く産地を目指して活動しています。



### ■高品質の秘訣は17の部会

当別花卉生産組合は品目別の部会で構成されています。組合員は自由に生産する品目を選ぶことができますが、必ず自分が作付する品目の部会に所属しなければなりません。各部会では、栽培技術や品質の向上に取り組み、特に共同で出荷するものには厳しい基準を設け、常に高品質の花を消費者の皆さんにお届けできるよう努めています。現在、部会の数は17……カスミ草、ユリ、トルコギキョウ、ひまわり、スナップ、1年草、デルフィニューム、チューリップ、グラジオラス、サンダーソニア、球根、ミスティー、バラ、木苺、宿根・花木、カーネーション、カラー……当別ではこれだけ多くの種類の花が生産されています。

### ■「当別の花」をPR

当別の花は、道内をはじめ、全国各地の市場に出荷されています。当別花卉生産組合では、当別の花をより多くの方に知っていただくため、PR活動に力を入れています。札幌の市場での展示や町内のお祭りでの品評会・即売会のほか、今年は札幌駅前地下歩道での直売も行いました。また、2月から10月の間は、北広島市に昨年夏にオープンした「くるるの杜」の直売所に出荷をしています。

### ■より元気な花をお届けするために

これまではお花の出番といえば、冠婚葬祭や記念日など特別な日が多かったですが、当別花卉生産組合では、これからは消費者の皆さんに特別な日以外にもご家庭でお花を気軽に楽しんでいただけるよう更なる技術の向上を目指しています。買っていただいたお花をできるだけ長く楽しんでいただくため、今まで以上に日持ちする「より丈夫でより元気なお花づくり」。これが新たな目標です。

### ■当別の花をもっと知るには

当別花卉生産組合では、ホームページで活動状況等を紹介していますので、是非ご覧ください。

アドレスは <http://tobet.u.cool.ne.jp/index.html> です。いつどの種類の花が出荷される予定かも掲載されています。

### ■取材を終えて

当別花卉生産組合では7月から10月は出荷の最盛期です。三浦組合長の農場に伺ったのは9月。この時期のご夫婦の起床時間は朝4時で、夜10時過ぎまで撰花作業をしているとのことでした。ビニールハウスの中で収穫した花を出荷できるものとはできないものに分け、出荷できるものは長さを揃え、余分な葉を落とす撰花作業。立ちっぱなしで、腰に負担がかかる作業です。農家皆さんのおかげで美味しい農作物が食べられるのと同じように、きれいなのが当たり前と思っていたお花も、実は農家の皆さんが手間暇かけて育ててくれたおかげで楽しめる……今回、作業の様子を見せていただき、改めて実感しました。



(平成23年9月取材 石狩振興局農務課)